

夢つむぐ島

～島人みんなで織り上げる未来～

シリーズ7. 「次世代」のために

島の現状と施策の方向性

第2次久米島町総合計画策定のために実施した住民アンケートの結果を見ると、島に住み続けたい理由、子育てのしやすさ等いくつかの回答結果から、島に住む人々が最も価値を置いているのが「島の自然」であることが浮かびあがりました。豊かな自然は人々の暮らしに潤いを与えると同時に、肥沃な土壌、清らかな水、生態系豊かな海は古来島人に安全な食糧と水を与える命の源となってきました。近年、赤土の流出による河川と海的环境破壊やゴミの不法投棄などによる山の荒廃、土壌汚染が深刻化しています。先人たちから守り継がれてきた命の源である豊かな自然を、美しい状態で子どもたちに繋げるための真剣な取り組みが必要です。

現在、久米島には海洋温度差発電プラント（OTEC）があります。また海洋深層水の複合利用から生まれたビジネスもそれぞれ成功への道を歩んでおり、今後も海洋深層水は農業、漁業、教育、医療、商業などあらゆる分野と結びついて島の未来を切り開く大きな可能性を秘めています。海洋深層水を使った食糧自給率の向上、エネルギー自給率の向上、ビジネスの創出など次世代に繋ぐ島の未来づくりの軸のひとつは、この海洋深層水であり、この資源を活用したビジネスを創出できる人材を呼び込むこと、また島内で育成することが必要です。

もうひとつ人材育成の観点では、未来に備えて島に不足している専門家、特に医療福祉分野での専門家を育成することも大切です。医療福祉分野では常に人材が不足している状況であり、島外から人を募集しても定着しないという現状の中、島に必要な人材とその資格等を早いうちから子どもたちに伝え、専門家への道を志したい子どもたちに関しては地域ぐるみでその道を応援していくこと。それにより、島の未来における医療福祉分野での安定したサービスを創り出していくという良い循環を生むことが可能です。

未来づくりの計画そのものである、第2次久米島町総合計画は、当然のことながら実行されなければその存在の意味がありません。基本構想でも示しているとおり、未来づくりの課題は教育、医療、福祉、産業などの分野を超えて複雑に絡み合っており、その解決策となる施策もまた単純に分野別に区切れるものではありません。島人全員が島が向かう未来像をしっかりと把握し、分野を超えて連携しつつ、それぞれの分野からできることを実行していくことなしには、成功はあり得ません。そして行政はそれを支えるための効率的な行財政運営を行い、住民にわかりやすい形で共有しつつ、官民一体となって計画を推し進めていくことが重要です。

基本計画に位置図けられた事業の一部を紹介します

●国際海洋資源・エネルギー利活用推進事業（プロジェクト推進課）

事業内容	海洋温度差発電と海洋深層水の複合利用を組合せた「久米島モデル」実現のため、大規模取水導入に向けた事業化に取り組んでいます。エネルギー・水・食料を自給自足できる島「久米島モデル」を熱帯・亜熱帯の島しょ地域に展開するとともに、魅力的な産業創出や産業観光（視察見学、研究生受入等）を通して、次世代に持続可能な島しょコミュニティをつないでいきます。	
成果目標	海洋温度差発電施設（OTEC）視察者数	基準値H29年1,315人 ⇒ R1年1,305人
事業効果	平成25年度以降、67か国から10,816人の視察を受け入れています。	
改善点又は今後の取組方針	海洋温度差発電と海洋深層水の複合利用を組合せた「久米島モデル」実現のため、引き続き、国、県への働きかけを行い、大規模取水導入に向けた事業化に取り組んでいきます。	